

介護助手を本格的に導入することで

職員がより安心して働ける環境を

人材確保と障害者雇用の二つを実現した若竹会「サンホームみやこ」

社会福祉法人若竹会の結成は、障害を持つ子どもの保護者や教員による「障害児にも教育の場を」という運動がきっかけでした。当時の宮古地域には障害児が通える学校が少なく、それを求めるための活動を行う団体が若竹会だったのです。

1975年に社会福祉法人となった若竹会は、同年、知的障害者通所更生施設を開所。その後も知的障害者の入所施設やグループホーム、精神障害者の通所施設などを設置し、1995年には特別養護老人ホーム「サンホームみやこ」を開きました。2024年4月からは、岩手県で三箇所目となる児童発達支援センターも手掛ける予定です。そんな若竹会が運営する特別養護老人ホームでは、複数の介護助手を配置しています。採用に至った経緯や、今後の課題について伺いました。



「サンホームみやこ」「サンホームみやこ絆」の施設長を務めている加藤伸二さん

障害者雇用の推進に向けて
高齢者の介護助手から採用

今回、お話を聞かせていただいたのは、「サンホームみやこ」で施設長を務めている加藤伸二さんです。加藤施設長は、若竹会における障害者福祉の現場で長く経験を積み、2016年より現職に就いています。

当時の「サンホームみやこ」は、介護職員の人材確保が大きな課題となっていたほか、障害者雇用の推進という課題も同時に抱えていました。どうにか改善しなければと、加藤施設長は障害者を介護助手として採用することを提案します。しかし「サンホームみやこ」のスタッフは、あくまでも介護や高齢者福祉のプロ。知的障がいや精神障がいのある人の対応には慣れていません。その状態で障害者を雇用すれば、現場が混乱する恐れもありました。

そこで障害者雇用の受け入れ準備として、まずは64歳の女性(健常者)を採用。加藤施設長は当時について、「このとき採用した方がとてもよく働いてくれて、現場のスタッフから『補助的な仕事をしてくれる人がいると助かる』という声が多く上がりました。もっと介護助手を増やしたいという雰囲気が高まり、障害者の雇用につなげることができたんです」と、振り返ります。

2017年からは、障害者トライアル雇用を経た1名を正式採用。その後も複数の障害者を受け入れ、現在は3名のスタッフが働いています。本人の意向を確認しながら就業時間の延長や業務内容の拡大などを行っていき、お互いが気持ちよく働けるよう工夫を重ねているそうです。

業務内容を明確化し
それぞれのペースで働く

現在、「サンホームみやこ」では、障がいのあるスタッフを含め7名が介護助手として働いています。業務内容はご利用者が食事を終えた後の下膳や浴室の掃除、居室ケア(清掃)、リネン交換、洗濯物の仕分けのほか、感染症対策としての消毒や換気などがあります。

「介護助手の皆さんにやっていただく業務は、受け入れを始める前に現場スタッフの声を聞いて決めました。例えば下膳一つとっても、ご利用者の栄養管理をする都合上、介護士がチェックしてからでないといけないので、介護助手の皆さんに業務を行ってもらっています」と、加藤施設長は語ります。

また介護係長を務めている鳥取美和子さんは、実際に現場で働きながら、介護助手の存在が大きな支えになっていることを実感していると言います。

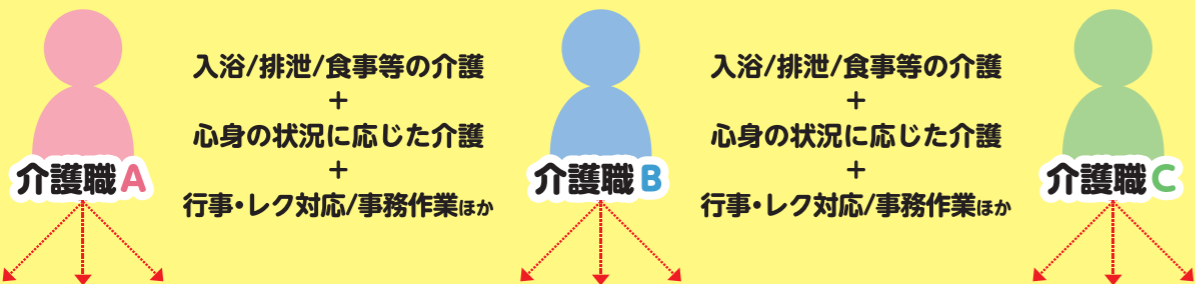
「特に朝は職員が少なく、配膳や食事介助、下膳、食器洗いなど、多くの業務をこなしながら慌ただしい時間が過ぎていきます。そんな中で介護助手がいてくれると、自分一人で頑張らなくてもいいんだという安心感があり、とても助かります」と、教えてくれました。



シーツ交換は介護助手が2人一組で行っている

介護助手に適した
業務の切り出し

●介護職の日常業務●



介護リーダーが、介護助手の力量を勘案し業務内容を決定します！

- 配膳・下膳
- 洗面所の清掃
- 浴室の清掃
- 居室ケア(清掃)
- リネン交換
- 洗濯・洗濯物畳み
- 食器洗い
- 介護用品の補充
- 行事・レクの補助
- 見守り
- 感染症対策(消毒作業/換気) など

介護助手として働くスタッフの声



畠山 清さん
採用年月：
令和6年1月採用

前職は配送業でしたが、体を壊してフルタイムで働くことが難しくなり退職しました。現在は7時～12時までの5時間勤務をしています。主な仕事は朝食の準備や食器洗いのほか、ご利用者のお部屋の清掃などを担当しています。周りのスタッフとの連携も取りやすいですし、もう少し慣れたらフルタイムで働きたいと思っています。



山本 伸乃亮さん
採用年月：
令和2年6月採用

主な業務はご利用者の食事介助や、配膳と下膳の補助、浴室や居室の掃除などです。ときには思うように行動できない日もありますが、わからないことは職員さんに質問したり、教えてもらったりして仕事を進めています。周りの人たちに自分の個性を知ってもらい、少しでも職員さんの手助けができる働き方を目指しています。

将来は資格を取得し
介護職として活躍してほしい

介護助手を導入した成果として、有資格者が利用者と同じく働くことや事務作業などの時間を増やすことができたという加藤施設長。ほかにも障がいのある人たちに一般就労の機会を提供できたことは、障害者に寄り添い続けてきた若竹会ならではの強みを生かすことにもつながりました。

その一方で、介護助手が担う業務内容の幅を広げることや、ステップアップにつなげることも、まだ課題も残っているそうです。加藤施設長は、「介護助手をきっかけに福祉の仕事へ興味を持ち、介護の資格を取って活躍してもらえたらうれしいです」と、語ってくれました。



各部屋のおむつ補充も介護助手の仕事の一つ

施設概要

社会福祉法人 若竹会
サンホームみやこ 絆



- ◆開設：平成24年
- ◆住所：宮古市崎鍬ヶ崎4-1-43
- ◆電話：0193-62-7011